

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2010～2014

課題番号：22243038

研究課題名(和文) 日本における社会学教育・研究の国際化の加速をめざす総合的研究

研究課題名(英文) Synthetic Research for Acceleration Internationalization of Sociological Education and Research in Japan

研究代表者

伊藤 公雄 (ITO, Kimio)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：00159865

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、特に社会学の分野を中心に、国際化の現状と課題を探ることで、日本の社会学の国際化を加速させることを目的とする。日本の社会学関連学会の国際化をめぐるこれまでの動向と課題を調査・分析するとともに、各国の社会学会のかかえる諸課題や国際化の動向を探り、さらに、国際社会学会(ISA)の世界会議の運営実態やISA所属のRC(リサーチコミッティー)の動きを調査・研究することを通じて、日本の社会学および関連学術分野の研究者に、社会学の国際化をめぐる諸課題についての認識の共有をめざす。あわせて、日本の社会学の歴史と現状を整理し、英文による報告書を作成することで日本社会学の国際的発信の一助とする。

研究成果の概要(英文)：It is often said that internationalization has not made much progress in the sphere of humanities and social sciences. The objective of this research is to speed up the internationalization of Japanese sociology by making clear the present situation and problems of internationalization. Along with analyzing trends that became clear with regard to internationalization of sociological scientific societies in Japan, we will investigate various problems of internationalization that sociological societies face in other countries. In addition, by examining the actual situation of organization of World Congress of International Sociological Association and trends within Research Committees of ISA, we aim at sharing the understanding on problems among Japanese researchers of sociology and related fields. We will also put in order the history and present condition of sociology of Japan, and, by creating reports in English, will facilitate the international dissemination of Japanese sociology.

研究分野：社会学

キーワード：国際化 世界社会学会 国際会議

1. 研究開始当初の背景

グローバル化の進行のなかで、日本の学術諸領域においても急速に国際化が進行しつつある。しかし、自然科学系分野と比較して、日本の人文社会科学系分野においては、一部の領域を除けば、教育研究の国際化の進行はいまだ十分とはいえない。学術のグローバルな展開と交流の深まりの中で、現在、日本の学術の一層の発展のためにも、教育・研究における国際化の加速が必須の課題となっている。こうした状況下で、日本における人文社会科学系分野の国際化の推進は、きわめて重要な課題である。本研究は、社会学および関連書領域の国際化の加速のために何が課題になっているかを明らかにするために実施された。

2. 研究の目的

本共同研究は、日本の人文社会科学分野の一層の国際化の促進をめざして、現在、国際化・国際交流の動きを強めつつある社会学分野を軸に、日本の教育・研究の国際化加速にとって、現在・過去において何が障害になってきたのか、また、現在の日本における社会学各領域および社会学関連領域の国際化の進行状況はどのような段階にあるのか、さらに各国の社会学会の国際化の現状および国際化に向けての動向は、どのような形で進行しつつあるのかをめぐって、総合的に調査・研究することを目的とする。また、すでに国際的に活動している国際社会学会の動向やそれに所属する RC (リサーチコミッティ) の動向についても調査を実施することで、日本の社会学の国際化の加速の可能性を探る。なお、国際調査の実施にあたっては、国際化の現状把握とともに、国内および各国の社会学および関連分野における研究動向調査や次世代研究者支援の実態などについても留意して調査にあたるものとする。

3. 研究の方法

世界の社会学会の現状調査とともに、国際社会学会の各 RC の現状について調査を行い、日本国内の社会学コンソーシアム所属学会に対する教育・研究の国際化の現状、国際化の障害となっている課題、現在進めつつある対応策等についてのアンケートおよび担当者へのインタビューなどを実施することで、社会学領域における国際化の実態について研究を行った。

さらに、国際社会学会の協力のもと、それに所属する主要 RC における研究動向調査・次世代支援策の現状および国際交流の現状と課題についても、同様の調査を実施した。また、国際社会学会所属の主要研究者の国内招聘による日本の社会学の国際化をめぐる協議を行ない、課題の抽出と対応策について議論を整理した。

社会学系コンソーシアムとの連携により、日本国内の社会学関連学協会にそれぞれの歴史と現状、国際的な学術交流についての方向性について整理を依頼し、それらを英文に翻訳して報告書としてまとめた。日本の社会学関連学協会の全体像を英文で整理し、その印象を海外の研究者に提示したことの意義は大きい。今後、社会学分野の国際的な学術交流にとってきわめて有効なメディアとなることが期待できる。

2014年の世界社会学会議の開催において、世界会議の組織化のプロセスおよび運営の実態についての記録を収集分析し問題点や課題を整理するとともに、大会開催時に生じた問題点や課題についても分析した。さらに、組織化および実際の大会運営上生じた諸問題とそれへの対応を調査し考察を加えた。

4. 研究成果

国際社会学会の各 RC についての調査分析を行うとともに、日本国内の社会学コンソーシアム所属学会に対する教育・研究の国際化の

現状、国際化の障害となっている課題、現在進めつつある対応策等についてのアンケートおよび担当者へのインタビューなどの調査分析を実施した。また、国際社会学会の各RCについての調査分析も行った（報告書『日本における社会学関連学協会の国際化の現状と課題』2013年参照）。

国内の社会学関連学協会の調査の結果、比較的国際化が進んでいると予想されたこの分野においても、外国語のみのジャーナルの刊行は遅れており（関連学協会のアンケートによれば18%の学会が外国語時ジャーナルを刊行していた）、また、関連国際学協会との交流についても、近年少しずつ開始されつつある状況（ほぼ半分の日本側学会が関連領域の国際学会と連携している）であることが明らかになった。

障害になっているのは何よりも資金不足（68%）、人員不足（61%）、語学の壁（54%）であった。

また、各国の社会学の現状について、特に社会学の講義の動向を軸に調査研究を行った。その成果は、日本社会学会社会学教育委員会との協力で行われたシンポジウムおよび社会学教育委員会の報告書のかたちで公表された。

その後、社会学系コンソーシアムとの連携により、各学協会のこれまでの歴史と現状、国際社会へ向けてのアピールを収集、英文に翻訳し報告書として公刊した（Message to the World—From Japanese Sociological and Social Welfare Studies Societies）。本報告書は、国内外の研究者および研究機関に発送するとともに、2014年に横浜で開催された世界社会学会議において、国際社会学会理事および各RCの責任者にも配布した。この報告書により、日本の社会学関連諸学会の歴史と現状について、英文の形で整理・発表できたことの意義は大きいものと考えられる。

また、5年間にわたる世界会議の組織化のプロセスおよび運営の実態についての記録を収集分析し問題点や課題を整理するとともに、大会開催時に生じた問題点や課題についても分析を行った。また、組織化および実際の大会運営上生じた諸問題とそれへの対応を整理し報告書として刊行し（日本の社会学の国際化加速に向けて—2014年世界社会学会議横浜大会の経験—）。

本研究の成果は、今後、社会学領域にとどまらず、日本の人文社会科学領域全体への波及効果をもたらす可能性がきわめて高いと考えられる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計17件）

- ① 伊藤公雄、2015「国家—グローバル企業複合体と官僚制のゆくえ」『情況』2015年1・2月号、130-145、査読無。
- ② Shujiro YAZAWA, Internationalization of Japanese Sociology, *International Sociology*, Vol.29. No.4,2014, 272-282, 査読有。
- ③ 矢澤 修次郎、2014, 「第18回世界社会学会議の五つの意味」、『社会学評論』65巻3号、317-326、査読有。
- ④ Shujiro YAZAWA, Toward a New Construction of Theory of Inequality, *European Journal of Political Science* advance online publication, DOI : 10.1057/eps.2014.49, 2015年2月, 1-3, 査読有。
- ⑤ Koichi HASEGAWA, “Anti-nuclear Movements in Japan: Before and after the Fukushima Nuclear Accident,” Kazuhiro Ueta and Yukio Adachi eds., *Transition Management for Sustainable Development*, Tokyo: United Nations University Press, pp. 251-272, 2014, 6, 査読無。
- ⑥ Koichi HASEGAWA, “The Fukushima

- Nuclear Accident and Japan's Civil Society: Context, Reactions and Policy Impacts,” *International Sociology*, No.29-4, pp. 283-301, 2014,7、査読有。
- ⑦ 長谷川公一. 2014. 「世界社会学会議横浜大会を振り返る」『社会学評論』65(3): 308-316, 査読有。
- ⑧ 矢澤修次郎. 2013、「文明として東アジアと東アジア社会学」、『日中社会学研究』21、P11-18、査読無。
- ⑨ Shujiro YAZAWA, “Transcendental Dimension in the Construction of the Universal Social Sciences,” In M. Kuhn and S. Yazawa eds., *Theories about and Strategies against Hegemonic Social Sciences*, Center for Glocal Studies, Seijo University, pp.94-104, 2013、査読無。
- ⑩ Shujiro YAZAWA, “Civilizational Encounter, Cultural Translation, and Social Reflexivity: A Note on the History of Sociology in Japan,” In M. Kuhn and K. Okamoto, eds., *Spatial Social Thought: Local Knowledge in Global Science Encounters*, Ibidem Verlag, pp.129-154, 2013、査読無。
- ⑪ 菊澤佐江子, 2013, 「ジェンダーと老親介護におけるストレス過程」『季刊家計経済研究』第98号, pp. 35-45、査読無。
- ⑫ 長谷川 公一, 2013、「社会学における国際化の意義」、『理論と方法』28、309-318、査読有。
- ⑬ 矢澤修次郎, 2012、Comparative history of sociologies in East Asia、第二回東アジア社会発展セミナー論文集、1-13、査読無。
- ⑭ Koichi HASEGAWA, 2012,” Facing Nuclear Risks: Lessons from the Fukushima Nuclear Disaster“, *International Journal of Japanese Sociology*, Vol.21,84-91、査読有。
- ⑮ 矢澤修次郎, 2011、「日本における社会学のために—国際化・文明分析・反省」『社会学評論』62-1、P2-17。
- ⑯ 矢澤修次郎・大隈宏・塘誠、2011、「現代資本主義の経済的・政治的・文化的矛盾—ヨーロッパの場合」『社会イノベーション研究』7-1、P2-17、査読有。
- ⑰ HAYASHI, Kaori, 2011,”Questioning Journalism Ethics in the Global Age. How Japanese News Media Report and Support Immigrant Law Revision” *Blackwell Handbook of Global Communication and Media Ethics 2011*, P534-553、査読有。
- [学会発表] (計 21 件)
- ① ITO, Kimio., 2015 “Violence” and “Death” in modern and contemporary Japanese boy’s culture, International Symposium: Child’s Play—Multi-Sensory Histories of Children and Childhood in Japan and Beyond, University of California at Santa Barbara. USA, 27-28 Feb, 2015.
- ② ITO, Kimio., 2015 Gender structure and gender policy in post-war Japan, Japanese and Australian Masculinities Symposium, at the Centre for Research on Men and Masculinities, University of Wollongong. Australia, 17, March, 2015.
- ③ Shujiro YAZAWA, The Rise of East Asian Sociologies, China Day, 2014年7月15日, ナビオス横浜, 招待講演。
- ④ Shujiro YAZAWA, “A Footnote on a Quest for East Asian Sociologies”, The 12th East Asian Sociologists Network Conference, 2014年10月24日～26日, Peking University, China, 招待講演。
- ⑤ Koichi HASEGAWA, “At the Crossroads of Energy and Politics: Shifting to a Sustainable Society,” International workshop on “Analysis and Evaluation of Climate Change Strategies,” The Asia Climate Change Education Center, Jeju, Korea, May, 23, 2014.

- ⑥ Koichi HASEGAWA, “Thinking on a Recovering Process from the 3.11 Disaster,” Japanese Thematic Session 1, The XVIII ISA World Congress of Sociology, PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan, July, 14, 2014.
- ⑦ Kikuzawa, Saeko. Family Caregiving and Stress Processes: Son and Daughter Caregivers in Japan. XVIII ISA World Congress of Sociology, Pacifico Yokohama, Yokohama, July 13-19, 2014.
- ⑧ Shujiro YAZAWA, “Community and Society in Japan” paper presented at International Conference on Social Development in Metropolis, May 22-25, 2013, Shanghai University, China
- ⑨ Koichi HASEGAWA, “Toward a Real Sustainable Future: Learning from the Great East Japan Earthquake”, Asia Pacific Sociological Conference 2014, 2014年2月15日, Chiang Mai University, Thai.
- ⑩ Koichi HASEGAWA, “Anti-Nuclear Energy Protest after the Fukushima Nuclear Disaster,” The Third ISA Conference of the Council of National Associations, Sociology in Times of Turmoil: Comparative Approaches, 2013年5月14日, Middle East Technical University, トルコ.
- ⑪ Kimio ITO, Past and Present of Japanese Gender & Gender Policy, at the 1st Bristol-Kyoto Symposium 2013 at the University of Bristol, イギリス, 2013年1月11日。
- ⑫ Shujiro YAZAWA, “Sociology facing on Unequal World: A Call for Transnational Public Sociology Agenda”, The 4th National Congress of Sociology of Thailand Same Land, but Different Worlds?: Future Research Agenda Bangkok, Thai, June 18-19, 2012.
- ⑬ Shujiro YAZAWA, “Toward a Comparative History of Sociology in East Asian Countries” Toward New Asianism in a Globalizing World Organized by Korean Sociological Association, Korean Association for East Asian Sociology, Seoul National University Asia Center October 25-26, Seoul, Seoul National University, Korea.
- ⑭ Shujiro YAZAWA, “Toward a Comparative History of Sociology in East Asian Countries” 10th East Asian Sociologist Network Conference East Asia at a Crossroad: Toward the Construction of a New East Asia November 22-23, 2012 Sophia University, Tokyo.
- ⑮ Koichi HASEGAWA, “Anti-nuclear Activities and Public Awareness in Japan: Before and after the Fukushima Nuclear Accident”, The ISA 2nd Forum of Sociology, Buenos Aires, Argentina, 2012年8月1日。
- ⑯ Koichi HASEGAWA, “Lessons from the Fukushima Nuclear Disaster: A Sociological Perspective”, The 104 American Sociological Association's Annual Meeting, Denver, USA, 2012年8月20日。
- ⑰ ITO, Kimio, “A few matters that I know about Fukushima-Daiichi case—from the viewpoint of politico-cultural” Frontiers of Knowledge: Health, Environment and the History of Science, Heiderberg University, Germany, 2011年10月5-7日。
- ⑱ Koichi HASEGAWA, “Thinking about the Fukushima Nuclear Disaster: Lessons and the Way to a Post-Nuclear Society,” Pusan National University, Busan, Korea, 2011年6月22日。招待講演。
- ⑲ Koichi HASEGAWA “Disaster, Risk Society and the Third Sector: the Japan Experiences,” The Taiwan Association for

the Third Sector Research's Annual Meeting,
National Chengchi University, Taipei,
Taiwan, 2011年9月24日. 招待講演

- ⑳ Saeko Kikuzawa, "Gender and Mental Health of Family Caregivers in Japan" 106th Annual Meeting of American Sociological Association, Las Vegas, Nevada, U.S.A., 2011年8月22日.

- ㉑ 林香里, 「ドイツの原発事故報道を考える: 韓・中・独・米4カ国報道比較調査結果より」、国際シンポジウム「ポスト3.11の日独市民社会」、東京大学駒場キャンパス、東京、2012年3月11日。

[図書] (計 4件)

- ① Shujiro YAZAWA, Japan Consortium for Sociological Societies, Messages to the World from Japanese Sociological and Social Welfare Societies, 2014, 335.
- ② Kim Seung Kuk, LI Peilin, Shujiro Yazawa eds. *Quest for East Asian Sociologies*, Seoul National University Press, 2014, 594P.
- ③ Koichi HASEGAWA, "Anti-nuclear movements in Japan: Before and after the Fukushima Nuclear Disaster" K. Ueta et al., eds. *Transition Management for Sustainable Development*, United Nations University Press 2014, 376P.
- ④ M. Kuhn and S. Yazawa eds. *2013, Theories about and Strategies against Hegemonic Social Sciences*, Center for Glocal Studies, Seijo University, 218P.

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤公雄 (ITO, Kimio)
京都大学・文学研究科・教授
研究者番号：00159865

(2) 研究分担者

長谷川公一 (HASEGAWA, Koichi)
東北大学・文学研究科・教授
研究者番号：00164814

研究分担者

矢澤修次郎 (YAZAWA, Shujiro)
成城大学・名誉教授
研究者番号：20055320

研究分担者

油井清光 (YUI, Kiyomitsu)
神戸大学・人文学研究科・教授
研究者番号：10200859

研究分担者

林香里 (HAYASHI, Kaori)
東京大学・大学院情報学環学術情報学府・教授
研究者番号：40292784

研究分担者

菊澤佐江子 (KIKUZAWA, Saeko)
法政大学・社会学部・准教授
研究者番号：70327154

研究分担者 (平成27年1月14日削除)

Pauline Kent (PAULINE, Kent)
龍谷大学・国際文化学部・教授
研究者番号：00288648

(3) 連携研究者

()

研究者番号：